

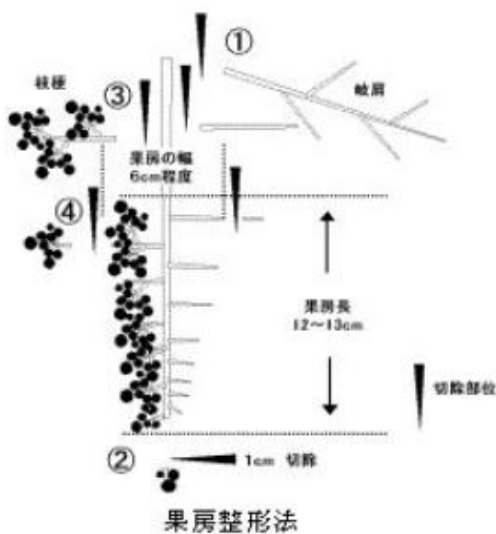
## ぶどう「スチューベン」の果房整形法

農林総合研究センターりんご試験場 県南果樹研究センター

津軽地方で栽培されている「スチューベン」は、糖度が高く貯蔵性に優れていることから11月以降の端境期に販売され、県外市場から高い評価を受けています。

「スチューベン」の円筒形密着果房は商品性が高く、選果や荷造り時の脱粒及び軸折れが発生しにくいことから、この果房を生産するための簡易でかつ正確な果房整形法を確立しました。その方法は以下のとおりです。

- 1) 開花前頃（6月中旬）の摘心時に岐肩を摘除する（図の①）。
- 2) 果粒が小豆粒大時（7月上旬）に果房の先端を1cm切除する（図の②）。次に残す果房長を12～13cmになるように果房上部の枝梗を切除する（図の③）。さらに長い枝梗を切りつめて幅6cm程度にする（図の④）。
- 3) 小豆粒大時以降、無核小粒果を摘粒する。
- 4) 下から1cmの位置に線を引いた縦13.5cm、横6cmの型紙を果房にあてがうと正確にできる（写真）。



型紙とそれを利用して整形した後の果房